

かがやきプラス 小学生 家庭版



テーマ 子どもの自立と地域のつながり

「子育ては多くの人とつながって」

金城大学短期大学部 幼児教育学科 准教授 よねかわ しょうこ 米川 祥子

小学生という時期の心の発達

小学生の6年間は、子どもから青年へと大きく変化する時期です。簡単にその特徴を列記します。

【7～8歳の頃】

- 関係のとらえ方が一方向的（「〇〇君が悪い」「謝ったからいいよ」）だが、相手の視点に立って考えることも可能になってくる。
- 他者からの発言をそのまま受け入れる「他律的道德」の時期なので、大人の言動が与える影響が大きい時期。

【9～10歳の頃】

- 「我々意識」「仲間意識」が強まる。
- 相互的関係の理解が可能（お互い様）。
- 客観的に捉える力もついてくるので、他の視線を気にして自己嫌悪感を抱きやすくなる。

【11～12歳の頃】

- 内面的思いを共感しあえる友人関係を持つようになるので、それを失うことへの不安も抱きやすい（自分を出せない）。
- 自分たちだけの「秘密の世界」を持ちたがり、閉鎖的グループになりやすい。

だんだん複雑になってくるお年頃。それに伴い、親子の対応も複雑になってきますから、親は迷いや不安、イライラを抱きやすくなります。



子育て中こそエンパワメントが大切

私が今、地域子育て支援に関わる者として注目しているテーマは、「子育て中の親子の周りにいかに多くの人をつなげるか」ということです。そのために、どのような取り組みをしているのかを以下に紹介いたします。

◆ある日の放課後児童クラブ保護者会での取り組みより

3～4人のグループに分かれ、まずは「お知り合いワーク」。簡単な自己紹介用紙を準備して、お隣の人と交換すれば、初対面のメンバーでもあっという間にお知り合いに。小学生を育てている親同士、共通の話題は尽きません。1時間くらい保

護者同士おしゃべりをして、気持ちを確認してもらいました。「こんなことで困っているのは自分だけじゃないんだと安心した。」「問題は解決しないんだけど、なんだかスッキリした。」などの言葉が。



◆人は分かり合えることで エンパワメントされる

1時間おしゃべりするくらいで、子育ての問題は解決しません。しかし、参加した皆さんの気持ちはプラスになっていました。人は他者にわかってもらうことで、安心し、勇気が湧いてくるのです。これは、心理学で証明されています。そして、その人が持っている潜在能力を発揮する力が湧いてきます。これを「エンパワメント」といいます。

イライラしがちな子育て中こそ、親は他者とつながってエンパワメントされることが大切なのです。

人間の子育ては社会（地域）の中で

ある生物学者の話より…

「人間は“一人の弱き赤ちゃんを多くの大人が周りを囲んで守って育てる”子育て方法を選んだ動物。だから、“母一人・子一人だけの密室で育児する”なんて状況は、人間の育てとして不自然な状況になるので親子が不安定になるのも当然」

このことから、人間の育てが健全に行われるためには、多くの人とつながることが重要であることがわかります。

しかし、地域のつながりが弱くなった現代、子育て中の当事者が意識的につながりを作らなければ、なかなか人のつながりは広がっていきません。現存している保育所・幼稚園の保護者会や小学校のPTA、町内の子ども会や放課後児童クラブの保護者会などは、子育て当事者同士がつながる大変有効な組織です。そのような組織に所属して、知り合いを増やしていくことで、保護者自身がエンパワメントされ、子育てに余裕も持てる状態になっていきます。

“自分だけで抱えずに、みんなで子育て。地域で子育て”。それが、子どもたちの健全育成につながります。



我が家の子どもの自主性・自立性

子どもに寄り添う心

(小2男子の母)

自主・自立とは何か。辞書には、自主とは、他人の保護や干渉を受けず、自分の判断で行動すること、自立とは、他の助けや支配なしに自分一人の力だけで物事を行うこと、とあります。

我が家の子どもは小学2年生なので、自主・自立はまだ遠い未来のことですが、ついこの前まで赤ん坊だった我が子が、一人で学校へ行き、放課後は一人で外に遊びに出かけるようになったことだけでも、親としては大きな成長だと感じています。

ただ、学校で嫌なことがあったときは、寝る前に一日の出来事を思い出して、私に吐露することがあります。それを聞いて、親として心配することもあります。我が子にとって母親である私が何より心の拠り所となっていることに少しホッとします。

親は、子どもの不安をいつでも受けとめること、安心させることが重要です。「大丈夫!」と声かけをするだけでも、子どもに安心感を与え、それが自主性・自立性を育むことにつながるのだと思います。

子育てはあつという間です。親はその短い時間を子どもに寄り添い、十分に子どもと関わること、子どもにとって安心する居場所になること、そうすることで、子どもは安心して親から離れ、一人で活動することができるようになるでしょう。

あつという間の子育て期間、子どもと共に泣き笑い、楽しみながら子育てしたいと思います。

体験から学ぶ

(小5男子の父)

我が家には中学1年生と小学5年生の男の子、そして5歳の女の子と三人の子どもたちがおり、賑やかに毎日を過ごしています。

その我が家の子育てのモットーは、“体験から学ぶ”ということです。自分で考え、自分で行動できる子、“生きる力”を育てることが大事だと考えています。子どもたちはそれぞれが習い事をしており、水泳や陸上、塾に書道、その他にも金沢宇宙塾に科学教室や算数チャレンジクラブ、親子キャンプでの自然体験、伝統工芸や農業体験、動物園や水族館での飼育体験など、様々なことを体験する機会を与えてきました。

また、お兄ちゃんたちはボーイスカウトもしており、長男はボーイ隊、次男はカブ隊に所属しています。次男はカブ隊では年長者(くまスカウト)であり、組長として年下の子たちをまとめる立場です。ボーイスカウトにおいても、いろいろな体験を通して自主性や協調性、社会性、リーダーシップなどを育てることを目的としています。

なお現在は、長男に引き続き次男も「金沢少年の翼」にて北海道での派遣研修中です。帰ってきた時には、ひとまわり成長した姿をみせてくれることを期待しています。

子どもたちにはこれらの経験を活かして、学校や地域、社会でリーダーシップをとれる子、積極的にボランティア活動にも参加できる子になってほしいと思います。そして、将来自分が本当にやりたいということを見つけれられるよう願っています。

勉強も運動も一番になれたことない
でもぼくは、お父さんとお母さんの
一番なんだって。

埼玉県北本市
小学校4年 柳通 陽来

今日もお母さんとお買い物
野菜や魚の選び方 いろいろ教わるよ
わたしも未来のお母さん。

富山県富山市
小学校6年 瀬川 莉央

うまれたときはなし
なんどきいても
うれしいな

長野県松本市
小学校1年 大出 瑞季

吹雪く朝「バス遅いね」と眩くと
大丈夫その分一緒にいられるよ!
幼いあなたの心はいつも温かい。

北海道札幌市
一般 安田 綾

家庭教育に関する指針 「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」

家庭は教育の出発点であり、子どもの心のよりどころです。子どもが安らぎを感じながら健やかに成長できるよう、かつて大人自身が家族のふれあいの中から教わった「大切なこと」を、子どもに伝えましょう。

1 持ち続けよう 子どもとともに学ぶ姿勢

子どもががんばったことは大いにほめて、お手伝いや学習、読書などに自ら取り組む意欲を伸ばすとともに、大人も「気づき」や「学び」を得る機会を持ちましょう。

2 きちんと守ろう 社会のルール 大人が手本

「子は親を映す鏡」、大人の行動を見ています。自らの行いを通じて、礼儀やマナー、言葉づかいを教え、良くないことはきちんと叱って善悪の判断ができるようにしましょう。

3 声かけよう 笑顔であいさつ 朝一番

自分からあいさつすることで会話が生まれ、家族の絆が強くなるとともに、地域の輪も広がります。笑顔のあいさつに心がけましょう。

4 創ろう あたたかい家族のふれあい

子どもに笑顔で接し、心によりそい共感すると、子どもは安心感を持ち、前向きに考えることができます。家族のふれあいや会話を大切にしましょう。

5 大切にしよう 思いやりの心 すべての命

子どもが受けた思いやりは、子ども自身の思いやりの心、ゆずりあいの心につながります。自分や他者の生命の尊さを伝えましょう。

6 伝えよう 心のこもった「ありがとう」

「ありがとう」と言われたうれしさは、人やものに感謝する心を育みます。日頃から、子どもに感謝の言葉を伝えましょう。

7 育もう 子どもの健康 「早寝 早起き 朝ごはん」

規則正しい生活リズムと食習慣は、一日のやる気と元気の源です。基本的な生活習慣と外遊びや運動で、たくましい心と体を育みましょう。

8 支えよう 子どもの夢と可能性

家族は子どもの一番の応援団です。いろいろな体験を通してチャレンジ精神やあきらめない心を育み、夢に挑戦する姿勢を温かく見守りましょう。

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ 研修相談センター 子ども総合相談センター	①おはなし電話	子どもの発達や学校生活、子育てなどに関する相談に応じます。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②子ども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
金沢市児童相談所	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を24時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市児童家庭相談室	経済的に困っている家庭の子どもに関する相談や、ひとり親家庭の相談に応じます。 (平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2422
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年2回の発行を予定しておりますので、お役立てください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp